

津輕ト秋田トノ重要ナル野生蔬菜

七 かへつどころ (さくばどころ 理科大學) *D. quinqueloba* THUNB. (圖中 12, 13)

葉柄ノ基部ニ刺ナシ (八)

雄花ハ梗軸上ニ獨在シテ無柄ナリ (九)

八 雄花ハ梗軸上ノ短枝上ニ數個アリテ小梗ヲ有ス、葉ハ分裂セズ (十)

九 花ハ黃色、雄藥六個ノ内内列ノ三個ハ不熟ニシテ筵狀ヲナス、葉ハ下方ノ邊緣波狀ヲ呈ス、最下ノ數葉ハ時ニ偽輪生ヲ成ス、莖ハ直立スルモ上方ハ蔓狀ト成ル たちどころ *D. gracillima* MRO. (圖中 14, 15)

花ハ淡綠暗紫色、雄藥ハ六個皆發育ス、葉ハ七乃至九裂、裂片ハ銳尖ナリ、乾ケバ通常暗色ト成ル、莖ハ全ク蔓ヲナス さくばどころ 草木圖說 (かへつどころ 牧野氏) *D. septemloba* THUNB. (圖中 16)

十 葉ハ心臟狀平圓形或ハ心臟狀卵形、花穗ハ上向ス、花蓋片ハ長橢圓形或ハ筵狀長橢圓形、蒴ハ少シク縦ニ長ク、種子ハ上方ニ翼アリ ちどころ *D. Tokoro* MAKINO. (圖中 17)

葉ハ心臟狀底ノ卵狀披針形或ハ三角狀披針形、底耳ハ往々横方ニ張出ス、花穗ハ下垂ス、花蓋片ハ狹瘦、蒴ハ圓ク、種子ハ周リニ翼アリ ひめどころ *D. tenuipes* FRANCH. ET SAV. (圖中 18, 19)

○津輕ト秋田トノ重要ナル野生蔬菜 (承前)

青森縣 佐藤耕次郎

(四) うはばみさう *Elatostemma involucratum* FRANCH. ET SAV. (くらむろ科)

一二くちなはじゃうごト云ヒ又むかごみづト稱スル、方言ヲみづ又ハめづト云ツテ津輕ト秋田ニ於テハ三尺ノ童兒モ尙能ク熟知シテ居ル蔬菜デアル該草ハ莖ガ脆軟多漿デ稍半透明ヲナシ高サ一尺内外ヲ普通トスルガ深山

うはばみさう

(實物より大、但し部分圖ハ縮大) (牧野富太郎氏ニ據ル)



T. Makino ad nat. delin.

Elatostemma involucratum FRANCH. ET SAV.

キ價值ヲ有スルモノデアル現ニ秋田ノ或地デハ宅地内ノ垣際等ニ肥培シ其レニ屋根ヲ掛ケテ日陰ヲ造リソシテ良質ノモノヲ生産シテキル(多クハ自家用)該草ヲ栽培セントセバ須ラク自生地ニ鑑ミテ外園ヲ陰潤ナラシムルカサモナクバ陰濕地ヲ選バネバナラヌ津輕ノ或處デハ之ヲ小川畔ノ石間ナドニ植エ付ケテキルガ日光ガ直射スルノト土質ガ合ハヌタメニ草體ハ小形ニ出來テ居テ到底作物トハ云ハレヌ程デアアル、吾地方デハ昔カラ自生品ノ採獲ガ盛ンナタメ今ハ近山ニ良品ハ得ラレナクナッタ此草ハ產處カラ一度ニ採取シテ了フトふきナド、同ジク次年カラハ良品ハ出ヌサウダソレデ今日デハ二尺近イ太イ品ハ深山カラデナケレバ出ナイ尤モ津輕半島ノ

ニハ一尺數寸ニモ及ブモノガアル性陰濕ヲ好ミ多ク山地ノ溪間ニ岩間樹下ヲ求メ時ニ單純群落ヲナシテ繁茂スル葉ハ不正形デ互生シ花ハ葉腋カラ出ル此草ハ吾地方デモ全土ノ人ガ之ヲ需メテ食ツテ居ルノデハナイ例ヘバ津輕半島ノ上磯ノ邊又舊南部地方デハ食用トシナイ或ハ蛇草ト云ツテ嫌ツテキル然シ其レハ名稱ニ拘泥スル食ハズ嫌デ本品ハ決シテ排斥スベキモノデハナイ否ナ立派ニ園藝蔬菜トモ爲スベ

上磯デハ昔カラ人ノ食フモノデナイトシテ土人ガ採ランダカラ人里近イ處ニモ頗ル大形ノ良品ヲ夥シク産スル今日デモ其邊ノ人々ハ尙ホ食用ニシナイサウダガ然シ此品ハ草質脆軟纖維少ク風味淡白デ頗ル口ニ適シ蔬菜中ノ上品デアル大正六年ノ相場ハ津輕デ上等品百本ノ代ガ五錢デアッタ

〔食法〕料理ニ用ウルニハ先ヅ莖ノ外皮ヲ剝脱シテ了フ、單純ナル山ノ料理ニハ味噌ヲ付ケテ生食スル、又味噌和ヘトモスル、諸種ノ吸物ニ入レテ頗ル良好、鹽漬トシテ用キ又貯藏スル、鮮魚ト共ニ醬油ノ煮漬物トスル

(五) あざみ類 *Cirsium* spp.

(あざみ科)

食用ニ供スルあざみノ中ニハ様々ノ種類ガ含マレテキルガ其内最モ多産且ツ蔬菜トシテ需用ノアルモノハやまあざみ *C. spicatum* MATSUM. デアル次ニひとつばあざみ (方言くらあざみ) *C. oligophyllum* MATSUM. ひめあざみ (方言同) *C. nipponicum* MAKINO. ごばうあざみ (方言同) *C. Tanakae* MATSUM. 等デアルガ亦一見食ハレサウモナイモノモ食用ニ供サレテキル彼ノ近年北海道アタリカラ渡來シテ今汎ク畑地ノ雜草トナツテキルをぞのあざみ (尤モ食法ハ少シ異フ) ヤ吾地方ノ野原路傍等ニ多イのはらあざみ (方言まあざみ又ハおにあざみ) *C. japonicum* DC. ナドモ稀ニ食膳ニ上ルコトガアル就中のはらあざみノ嫩葉ハ他ノあざみヨリ風味ガ優ルト言ハレテキル其他あざみト稱ヘテ供給サレルモノ、中ニハ頗ル珍種ニ屬スルモノモ含マレ居ルラシイドダイあざみノ分類ハ吾々素人目カラハ甚ダ困難デアル今當地ノ市場ヤ八百屋ノ店先ニ出テ居ルモノヲ十把位モ解イテ見ルト中ニ津輕特産ノあをもりあざみ *C. acutense* TAKAI. ナドモ見受ケル又岩木山ニ行クト春ハ四月頃カラ夏ノ七月頃マデあざみノ嫩苗ハ絶エズ産出サレル夫ハ峰ニ行クニ從ヒあざみ類ノ發生ハ遅ク頂上近クニ行クト雪消ヲ追フテ萌出スルノダカラ下方ノモノガ既ニ硬化シテ食用ニ堪エヌヤウニナツテモ尙峰ノ方カラ若々トシタ軟イモノガ供給サレル譯ダ無論峰ノ方ノモノト下方ノモノトハ種類ハ異フ下方ノモノハ普通ノやまあざみやごばうあざみなドデ峰ノ方ハ是等ノ遅レモノトのみねあざみ即チ *C. alpicolum* TAKAI. 等デアル峰ノ方ノモノモ灌

木帶邊ニ至ルト小形トナツテ良品ハ得ラレヌ凡テあざみハ葉縁ノ刺ガ皮膚ニ痛ミヲ感ジサセルヨウニナルト食用ニ供サレナイガソレデモ林間ヤ陰地生ノモノハ比較的伸長シテモ賣品トナル普通ハ一尺二三寸マデノモノガ用キラレル大正六年ノ相場ハ百本十錢位デアッタ

〔食法〕三四寸ノモノハ嫩キ莖葉全部ヲ用キ一尺内外ニ伸長スルト主トシテ莖部ヲ用ウ、嫩苗ヲ煤キ細切ニシテ味噌汁ニ造ル殆ド春ニ於ケル常食デアル、嫩キ莖ヲ鮮魚ト共ニ醬油ノ煮漬トスル、又單ニ煮漬トシテモヨイ同ジク莖部ヲ鹽漬トスル、甘漬ヲ造ルニハ米飯ヲ搗ツテ糊狀トナシ切斷シタ莖ヲ投ジ鹽ヲ加ヘテ漬ケル

尚ホ此他山地ニ於テ直接生食ニ供サレルしうど(方言えどによ) *Angelica polyclada* FRANCH. はなうど(方言あまによ) *Herncleum lanatum* MICHX. すいば又すかんぼ(方言だやす) *Rumex Acetosus* L. のびる(方言さもと又のしる) *Allium nipponicum* FRANCH. ET SAV. 等ノ野草モアルガ廣ク用キラレテ居ナイカラ略スル(完)

○斷枝片葉 (其五)

牧野 富太郎

●へちまノ名義

物類稱呼ト云フ書ガアル其卷ノ三ニへちま即チ絲瓜名漢ニ就テ左ノ如キ事ガ書イテアル『へ

チマ○信濃ニテとうリト云薩州ニテながうリト云とうリハ絲瓜うと瓜ノ上略ナルベシ或人ノ曰へちまトイフ名ハとうリヨリ出タリ其故ハとうリトノ字ハゐるはノヘノ字トちノ字ノ間ナレバへちノ間トイフ意ニテへちまトナヅクルトゾ云々』大槻氏ノ言海ニハ『へチマ 絲瓜 蠻語ナリト云、詳ナラズ、或云、絲瓜イトウリヲ約メテ、とうリトモイフ、とハ伊呂波歌ニテ、へトちトノ間ナレバイト、強牽ナラム』ト書イテアル

●からすうり

支那ニ王瓜ト云フモノガアツテ *Thaдиantha dubia* Bunge. ノ學名ヲ有スル我邦信州追分邊ニ此瓜ガ自生シテ居ッテ前年始メテ理學士大渡忠太郎君ガ採ッテ松村任三博士ガ此レニおぼすゞめうリノ新和名